
「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 59

2010.5.1 (土)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今日の海の生き物」 ゼニイシ *Marginopora* sp.

写真は、海草の *Halophila spinulosa* の若い株の間の海底に散らばるゼニイシを示したもの。ゼニイシは原生動物有孔虫類で、単細胞動物だが、大きさは1cmにもなり、有孔虫ではもっとも大きくなる。アメーバのような体だが、穴のたくさん空いた石灰質の殻をもち、銭のような石という意味でゼニイシとよばれる。熱帯・亜熱帯地方の浅い海の海底や海藻の



上、サンゴの上などサンゴ礁海域のあらゆる場所に見られる。動物だが、体内に渦鞭毛藻類の *Gymnodinium rotundatum* や褐虫藻類の *Symbiodinium* などを無数に共生させており、体は薄い褐色もしくは紫色を呈することが多い。有性生殖と無性生殖が知られているが、無性生殖で増えることが一般的である。

(フィリピン・ミンダナオにて 向井 宏撮影)

目次 「今月の海の生き物」ゼニイシ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 「海の生き物を守る会」の活動報告
3. 「海の生き物を守る会」の現在の活動と予定
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
5. 海の生き物とその環境に関する文献
6. 事務局便り
7. 編集後記

1、海の生き物とその生息環境に関するニュース

【国際】

●絶滅危惧種のクジラの肉が、アイスランドから日本へ

国際的に絶滅危惧種に指定されているナガスクジラは、ワシントン条約で輸出入が禁止されている。ところが、アイスランドが13頭のナガスクジラを日本へ輸出しようとしているのがオランダのロッテルダム港で確認された。日本とアイスランドはワシントン条約で規制されているナガスクジラについて、条約に従うことを留保しているため、ただちにワシントン条約違反にはならないのだが、捕鯨国アイスランドでも捕鯨した肉が消費できず、日本に輸出し、日本は過去最高の鯨肉の在庫があるにもかかわらず、輸入をしている。どちらも捕鯨を続けるためというのが目的の捕鯨であることが、この鯨肉貿易から見えてくる。

【全国】

●環境省がサンゴ礁生態系保全行動計画を策定

環境省が、今年の生物多様性条約 COP10 に向けて、国として初めてサンゴ礁生態系の保全行動計画を作った。この計画は、これまでサンゴのみに対策が絞られてきていたことを反省し、サンゴが生息する地域全体を保全するような対策を考え直した結果とされる。行動計画によると2014年までに、サンゴ礁生態系の保全と観光などの活用に向けて各省庁や自治体と連携を強化する。具体的な対策としては、オニヒトデの駆除、沖縄県サンゴ礁の保全、国際的なサンゴ礁ネットワークづくりなどが上がっている。

【関東】

●霞ヶ浦導水事業の中止を要請 那珂川関係漁協

茨城県那珂川に霞ヶ浦導水樋管の取水口を設置する問題で、茨城県および栃木県の那珂川

関係漁協協議会は、茨城県選出の 5 人の民主党衆参議員とともに、前原国交相に工事の中止を要請した。工事を再開するかまたは継続する場合には、すべての流域関係漁協の同意を条件とするように要請した。国交省は、同事業について見直しの対象としており、有識者会議で検討を加えている。前原国交相は夏までに有識者会議の結論がでると予想されることをふまえて、有識者会議の結論にそった対応を行うと回答した。

●打瀬舟を東京湾へ 「東京湾再生のシンボルに」

NPO「海辺つくり研究会」は、東京湾の再生のシンボルにと、1950 年代に姿を消した東京湾の打瀬舟を復活させようと計画している。打瀬舟は、帆を張って風の力で横に網を引く伝統的な漁法を行う舟。各地のアマモ場などで使用されていたが、現在ではオンネトー（北海道）、霞ヶ浦（茨城県）、八代海（熊本県）などで観光をかねて使用されているのみである。東京湾では、汚染と埋め立てが進み、漁場が無くなり、漁法や舟の近代化も進んだ中で、打瀬舟は消えていった。なによりも漁業者がいなくなってしまった。

復活させる打瀬舟は、現在でも残っている熊本県芦北から譲り受け、今年 6 月に東京湾に回航する予定である。しかし、打瀬舟による漁法を復活させるアマモ場はもはや東京湾にはほとんど残っておらず、漁業を復活させることはできない。あくまで東京湾を復活させようという運動のシンボルとしてのもので、代表者の木村尚さんの話によると「大人の遊び」「夢」とのことで、各種イベントで使用するという。

●海水浴場で全面的な禁煙を実施 神奈川県

神奈川県議会は、3 月 19 日の本会議で「神奈川県水浴場等に関する条例の一部を改正する条例案」を可決し、海水浴場では喫煙専用区域を除き、喫煙をしてはならないという、新しい神奈川のルールを導入することを決めた。今年の海水浴シーズンから実施される。

【東海】

●天然いけすで藻場を造成 ナマコの産卵場に

三重県鳥羽市国崎町の有志が「くざき鮟（あわび）研究会」を結成し、活動を開始した。会員は 7 名。最初の活動として、ナマコの産卵場づくりに取り組んだ。場所は、昔アワビを捕って一時的に畜養するために作られた天然いけすの「ようす池」で、ナマコの隠れ家となる蛸殻やコンクリートブロックなどを入れた。今後、廃棄された漁網などを使ってガラモ場などのナマコの生息場所づくりを進めるという。ナマコやアワビの産卵に適した環境を作るのが目的という。

ナマコは、この付近ではアワビとならんで海女漁の主要な対象種。近年中国などの需要が高まり、各地で資源の枯渇が心配されている。地域資源を守る取り組みとして行われているが、その将来への効果はまだ不明。

【中四国】

●中国電力の説明会を祝島住民が阻止

山口県上関町長島に原子力発電所建設を予定している中国電力は、原子炉設置許可を得るためには地元住民の合意を得る必要があり、反対を続ける祝島の人々への説明会を計画。中国電力の現地事務所長など 15 人程度の社員を説明会のために祝島へ向かわせた。しかし、祝島住民が 100 人以上も棧橋で反対集会を開き、定期船から下りようとする中電社員の上陸を阻止した。中電は 3 日間、説明会を開こうと祝島に出かけたが、ついに一步も上陸できず、祝島での説明会開催をあきらめた。



その後、中国電力は上関町長島で祝島住民を対象とした説明会を開催。参加したのは祝島住民約 500 名のうち推進派の 18 名だけだった。中国電力は、説明会がスタートしたことを自賛。「原発を建てさせない島民の会」は、祝島で行わなければ説明会の意味はないと批判し、中国電力のやり方を許し続ける山口県知事への抗議として、県庁で抗議の座り込みを開始した。現在も座り込みは続いている。

●新たな協議会「中海会議」が発足 大橋川改修事業の副産物

島根県松江市の大橋川改修事業を進めようとする国交省や鳥取、島根両県知事の合意を受けて、これまでの「中海に関する協議会」を解消し、あらたな「中海会議」が発足した。会議を構成するのは、鳥取・島根両県、沿岸 5 市町、国交省中国地方整備局、農水省中国四国農政局で、環境省および防衛省がオブザーバーとして参加する。議長は両県知事。会議には堤防・護岸整備部会、水質・流動部会を設置、これまでの「中海護岸等整備促進協議会」と「中海水質改善対策協議会」は改組して同会議の部会へ編入されることになった。会議は年に 1 回開き、中海、境水道の堤防・護岸等の整備▽中海の水質、流動など▽沿岸農地の排水不良▽中海の利活用ーなどを協議する予定。

同会議の第 1 回会合が 4 月に開かれ、「よりよい中海」を目指して新たな協議会をスタートさせた。米子市長は、第 1 回会合で、大橋川改修事業の同意について「水質改善策が必要とされる場合、大海崎堤の開削も協議検討となっている」と念を押し、松浦正敬松江市長が「水産振興を共通課題で取り上げてほしい」と注文をつけた。

●経島のウミネコ、営巣数も産卵数も減少か

島根県出雲市大社町の日御碕にある経島は、ウミネコの繁殖地として天然記念物に指定されている。ここのウミネコの営巣数と産卵数は、毎年日本鳥学会会員の中井春治さんと出雲市職員が行っているが、今年の調査が4月23日に行われた。今年は営巣数も産卵数ともに過去の平均値よりも少なかった。今年は気象条件が悪く、その影響と見られる。しかし、今年は産卵のピークも例年に比べて遅かったため、今後も産卵数が増える可能性もあると中井さんは考えている。

【九州】

●スナメリの赤ちゃんが死亡 大村湾

10日前に長崎県西海橋付近の海で生まれたばかりのスナメリが浮いているのが発見され、九十九島水族館「海きらら」で保護されていたが、21日死亡した。保護されたときはまだへその緒がついている状態で、尾びれが曲がり、泳ぐこともできなかったため、親とはぐれてしまったと考えられている。体重は6.2kg、体長は65cmだった。

スナメリは水産資源保護法に指定された保護動物で、瀬戸内海や有明海、三河湾などの内湾に生息する世界でもっとも小型のクジラ類。大村湾にも少数ながら生息している。瀬戸内海東部では、極端に減少し、開発の影響を大きく受けている。周防灘にはまだかなり生息しているが、繁殖地として知られる周防灘東部の長島では、埋め立てと原発建設が予定されており、スナメリ個体群の存続が心配されている。

●熊本県が環境学習を行う支援団体を募集 水俣病の教訓

熊本県では、水俣病の教訓を生かすために、環境に関する学習や講演会などに取り組む団体に支援をすることを決めた。現在、提案を募集中で、締め切りは5月14日。募集しているテーマは、(1)水俣・芦北地域の学校を対象とする環境学習(2)水俣病の教訓を踏まえた環境教育のカリキュラム作成(3)県内外で行う一般人向けの環境講演会やセミナーの3種類。応募できるのは法人か定款などを持つ団体。これは、国と県の責任を認め、水俣病関西訴訟の最高裁判決に基づき2006年度から始めたもの。今年度の予算は350万円。

●諫早湾潮受け堤防の開門調査へ

4月28日、与党三党の会議で、潮受け堤防の一部開門調査を一年以上実施することを承認。赤松農水相は、この決定を受け入れて開門調査が行われることになった。

【沖縄】

●東門市長が政策協定で泡瀬干潟の保全を約束

沖縄県沖縄市の市長選挙が行われ、現市長の東門美津子氏が再選された。泡瀬干潟の埋め

立て事業をこれまで推し進めてきた東門市長が、再選後どのような態度を取るか注目されているが、選挙に際して東門氏は、社民党、共産党、社会大衆党、民主党の推薦をうるにあたって、泡瀬干潟をめぐり以下のような政策協定を締結していたことが判明した。

- ① 沖縄市の土地利用計画に経済的合理性がないときは、事業を推進しない。
- ② 泡瀬干潟を守り、貴重種・希少種の保護や持続可能な環境保全に取り組む。

この協定が守られるかどうかを今後注視しよう。

●普天間基地移設で、辺野古に杭打ち滑走路案 徳之島にも海兵隊移転

迷走する米軍普天間基地の移転問題を巡って、辺野古沖埋め立て案も完全に消えないままに、勝連沖案や県外として鹿児島県徳之島や馬毛島が移転候補地として上がっている。徳之島については、鳩山首相が徳之島出身の徳田元衆議院議員と会談するなど、鳩山政権の最終案になると思われる。3月24日、徳之島では14000人が反対集会を開催。鹿児島県知事も反対を表明している。鹿児島県議会の自民党・公明党・共産党の各会派は、5月8日にも反対の県民総決起集会を鹿児島市で開くことを決めた。

鳩山政権は、5月末の決着を図るため、海兵隊の一部を徳之島へ移転させ、辺野古の浅瀬に杭打ち方式の滑走路を新しく造るという最終案を目指していると報道されている。しかし、杭打ち方式でも辺野古の海の価値は大きく損なわれる。公約である最低でも県外移設という約束が守られるかどうか、注目していかなければならない。

●「あなたの裏庭に30も軍事基地欲しいですか？」 米新聞に全面広告

4月28日付けのワシントンポスト紙に、アメリカと日本の環境保護団体が企画して全面広告が掲載された。内容は、米軍普天間飛行場を沖縄県内に移設することに反対し、「あなたの家の裏庭に30もの軍事基地が欲しいですか？」と呼びかけるもの。「新たな基地建設は人々の健康と安全を脅かし、ジュゴンなどの生態系に脅威を及ぼす」と訴えた。広告を出したのは、アメリカの環境保護団体や反戦団体でつくる「ネットワーク・フォー・オキナワ」など。日本の団体も参加している。

2. 「海の生き物を守る会」活動報告

●ジュゴンの姿、今年も見えず スタディツアーを実施

フィリピン・ミンダナオ島南ダバオ州マリタでのジュゴンとバナナプランテーションの関係を見るスタディツアーを、4月14～17日の日程で行いました。参加者は、日本人が1名、フィリピン人が2名でした。ジュゴンの観察時間は合計4時間程度でした。時間が短かった

こともあり、今年もジュゴンを観察することができませんでした。短い観察時間のため確実なことは言えませんが、地元の人たちの話も総合すると、ジュゴンの出現数はかなり減少していると思われます。しかし、今年エルニーニョのせいでフィリピンでは降水量がきわめて少なくなっており、そのために川からの濁水の流入も減少して、ジュゴンの餌である海草の調査では、海草の量が減少しているという結果は出ませんでした。ジュゴンの個体数が回復してくれると良いのですが。

3. 「海の生き物を守る会」 現在の活動と予定

全国の砂浜海岸生物調査にご協力下さい

多くの方が、多くの海岸でこの調査に参加していただけるようお願いいたします。ご協力いただける方には、方法と調査報告用紙をメールでお送りいたします。当会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> にも掲載しています。

これまでに会員や非会員のみなさまから寄せられた調査票は現在までで合計60枚、全国39ヶ所の砂浜で調査が行われました。全国の砂浜調査にするには、まだまだ多くの海岸で調査が必要です。最低各県で2-3ヶ所の砂浜を調査し、全国で100ヶ所以上を目指しています。ぜひともみなさまのご協力をお願いします。これまで調査された砂浜の都道府県は以下の通りです。

北海道、青森県、神奈川県、千葉県、三重県、和歌山県、福井県、京都府、大阪府、兵庫県、香川県、徳島県、高知県、山口県、福岡県、沖縄県

4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【全国】

●丹葉暁弥氏巡回写真展

「カナダ・バンクーバー・アイランドの森と海」開催

OWS 会員でシロクマ写真家として著名な丹葉暁弥氏の巡回写真展が、全国のモンベルクラブ・サロンで開催されている。過去にも同サロンで巡回展を開催したが、今回はカナダ・ブリティッシュ・コロンビア州西部、バンクーバー・アイランドの森と海の写真約 35 点を展示する。バンクーバーの西に位置するバンクーバー・アイランドは、深い森林やどこま

でも続く海岸線など、とても美しい大自然が広がってる。シロクマ写真家が見た、精霊が宿る森、そしてため息がでるような海と空をぜひご覧下さい。

神戸三宮店 2010年4月24日(土)～5月16日(日) 入場無料

http://store.montbell.jp/search/shopinfo/?shop_no=618855

諏訪店 2010年5月22日(土)～6月13日(日) 入場無料

http://store.montbell.jp/search/shopinfo/?shop_no=618854

高松店 2010年6月19日(土)～7月19日(月) 入場無料

http://store.montbell.jp/search/shopinfo/?shop_no=618887

【東北】

●蒲生を守る会

蒲生・自然観察会へのおさそい― 春の干潟の渡り鳥 ―

5月は渡り鳥の移動の時期にあたり、最も干潟が野鳥でにぎわう季節です。干潟に特有のシギやチドリの仲間はちょうど見ごろですし、冬鳥のカモ・カモメの仲間もまだ見られます。また、ツバメやオオヨシキリの夏鳥も姿を現し始めるころです。干潟を一周してどんな鳥がいるのか探してみましよう。

とき：2010年5月5日(休日) 9:30～14時頃

ところ：蒲生海岸「日和山」集合

仙台市街からの方は駅前(さくら野前) 8時33分発(交通局始発 8時22分)の市営バス「蒲生」行に乗り終点下車(片道大人 570円・子供 290円)

持ち物：昼食、飲み物、メモ用具、帽子、あれば図鑑、双眼鏡など

<参加無料> 雨天中止

連絡先：蒲生を守る会 仙台市青葉区角五郎 2-4-6 木村方 TEL：(022) 223-5025

【関東】

●緊急シンポジウム&パレード

「いのちの海を埋め立てないで！」

～瀬戸内・長島の海から自然との共生を考える～

とき：2010年5月9日(日) 開会 11:00 パレード出発 15:00

ところ：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー地下1階 1001号教室

参加費：一般 800円 学生 500円 (モーニングイベント&シンポジウム)

プログラム

11:00～11:45 モーニングイベント

『ミツバチの羽音と地球の回転』予告編上映&鎌仲ひとみ監督トーク

12:30～14:45 シンポジウム

加藤 真(京都大学教授)講演、上関町現地からのアピール、ほか

15:00～ パレード

いのちの海を埋め立てないで!

～瀬戸内・長島の海から自然との共生を考える～

祝島の人々の闘いは、豊かな島と海を守るためだけでなく、日本列島と大陸にいたる人々の命と自然を守るための闘いです。長い間、祝島の人々に、私たちの防波堤としての孤立した闘いをゆだねてしまっ、本当に申し訳ありませんでした。今年こそ、この国の原発推進政策の歴史的な撤退の一步を踏み出したいと思います。広河隆一（フォトジャーナリスト）

現実を変えることができる。それは私たち自身が無力から微力な存在に変わり、つながり合うことによつて可能だと、確信を深めています。たおやかでありながら変わらぬ意志、「原発は何の解決にもならない」「もう一つのエネルギーを実現しよう」という願いを諦めることも決してありません。現実是我们の手で変えられるのです、しかも楽しみながら!! 鎌仲ひとみ（映像作家）

◆◆ プログラム ◆◆

- ◆ モーニングイベント 11:00～11:45
『ミツバチの羽音と地球の回転』
予告編上映&鎌仲ひとみ監督トーク
 - ◆ シンポジウム 12:30～14:45
加藤真教授（京都大学）講演
上関町現地からのアピール、ほか
 - ◆ パレード 15:00 出発予定
（パレードのみの参加も歓迎！無料）
- ※ミニ・ブースや写真展示もあります

2010年

5月9日(日) 開場 10:30 開会 11:00 パレード出発 15:00

会場：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー 地下1階 1001号教室

参加費：（モーニングイベント&シンポジウム）一般 800円 学生 500円

参加賛同費をお支払いいただいた方は1口につき1名様無料となります。裏面をご覧ください。

主催：上関原発どうするの？～瀬戸内の自然を守るために～（略称：上関どうするネット） / 現代史研究会

後援：WWF ジャパン / 日本自然保護協会 / ラムサール・ネットワーク日本 / 全国自然保護連合

お問い合わせ：Mail dousuru_net@mail.goo.ne.jp Tel 03-3357-3800（原子力資料情報室/担当：伴・永井）

●千葉県野鳥の会

三番瀬（船橋）自然観察会

期日：5月2日（第1日曜日）

集合：ふなばし三番瀬海浜公園バス停、午前10時

交通：京成船橋駅南口（JR 船橋駅から南へ徒歩2分）から、船橋海浜公園行きバスに乗車、終点下車。（9:20,9:40 発があります。）また、JR 京葉線二俣新町駅からは約2.5km。駅から約300mのバス停「二俣新道」から上記バスが利用できます（9:33,9:53 発）。潮干狩客で混雑が予想されます。

案内：干潟が最もにぎやかな季節です。北へ渡るきれいな夏羽のキアシシギ、オオソリハシシギ、メダイチドリなどのシギ・チドリ類やカニやゴカイなどの生き物にたくさん出会えます

持物：観察用具、弁当、水筒、ぬれてもよい靴（長靴）、防寒具。参加費200円

担当：杉本秀樹（047-477-4551） 田中富夫、田島清孝

共催：日本野鳥の会東京支部（担当：田久保晴孝）

●千葉県野鳥の会

小櫃川河口・盤洲（ばんず）干潟自然観察会

期日：5月3日（祝）

集合：①金木橋西側、午前9時30分 ②JR 巖根（いわね）駅、午前9時

交通：JR 内房線 巖根駅より徒歩25分で①に

案内：アシ原、干潟、塩性湿地、水田がセットで残るすばらしい自然が盤洲です。メダイチドリ、キアシシギなどシギ、チドリやアシハラガニ、アカテガニ、ヤマトオサガニなど干潟の生き物やハマエンドウ（花）、コウボウムギ、シオクグなどの海浜植物なども観察できます。解散は現地にて15時頃。

持物：弁当、水筒、長靴、あれば観察用具。参加費200円。

担当：田久保晴孝（047-434-9824）（090-1250-3475）

●千葉県野鳥の会

こどもの日 谷津干潟自然観察会

期日：5月5日（祝）

集合：谷津干潟自然観察センター前、午前10時

交通：①JR 総武線津田沼駅南口から新習志野行き又は幕張本郷行き京成バスで津田沼高校前下車 ②JR 京葉線南船橋駅下車徒歩20分

案内：日本で"最もすばらしい自然"のひとつに、この時期の谷津干潟をあげたい。オーストラリアなどから繁殖地に向かうために一時立ち寄る旅鳥（オオソリハシシギ、メダイチドリ、トウネンなど）と冬鳥（シロチドリ、ダイゼン）、夏鳥（コチドリ、コアジサ

シ)・・・たくさんの水鳥にあえます。なお、当日はチュウシャクシギのねぐら入りも観察します。ピーク 18:30 ごろ。南側観察デッキで観察予定。(17:00~19:00)

持物：観察用具、昼食。参加費 200 円

担当：田久保晴孝 (047-434-9824)(090-1250-3475)

●世界と日本の生物多様性総合評価発表記念シンポジウム

生物多様性のいまーいのちの共生を、未来へー

環境省は、国連大学、生物多様性条約事務局とともに、本年 5 月 10 日に「世界と日本の生物多様性総合評価発表記念シンポジウム 生物多様性のいまーいのちの共生を、未来へー」を開催することとなりましたので、お知らせします。世界の生物多様性の総合評価については、生物多様性条約事務局によって、「地球規模生物多様性概況第 3 版 (GBO3)」の作成が進められており、同日付で、生物多様性条約第 14 回科学技術助言補助機関会合 (S BSTTA) が開催されるケニア (ナイロビ) など、世界各地で同時発表されます。

日本の生物多様性の評価については、環境省が設置した「生物多様性総合評価検討委員会」により検討がなされてきた結果がとりまとめられ、本シンポジウムで発表されます。

また、本シンポジウムでは有識者によるパネルディスカッションが予定されています。

開催日時：平成 22 年 5 月 10 日 (月) 13 : 30~

開催場所：東京都渋谷区神宮前 5-53-70

国連大学本部 3 階 ウ・タント国際会議場

主催：環境省、国連大学、国連環境計画、生物多様性条約事務局

後援：外務省 協力：地球環境パートナーシップオフィス

入場料：無料 (定員 300 名・事前登録制)

申込先：件名に『5/10 生物多様性総合評価発表記念シンポジウム』と記入し、本文に氏名、所属機関、E メールアドレス、電話番号、本シンポジウムを何で知ったかを明記して、5 月 5 日 (水) までに eventregistration@ias.unu.edu 宛に御送信下さい。お申込みをされた方には随時返信メールをお送りしますので、そちらをプリントアウトの上、当日受付に御提示下さい。なお、定員になり次第、締め切らせていただきますので予め御了承下さい。

使用言語：日本語及び英語 (同時通訳付き)

プログラム

13:30-13:45 冒頭挨拶

13:45-14:00 ビデオメッセージ

・アフメッド・ジョグラフィ (生物多様性条約事務局長)

14:00-15:20 プレゼンテーション

・A.H.ザクリ マレーシア政府科学顧問/GBO3 科学審査パネル共同議長)

『GBO3 とポスト 2010 年目標』

・中静 透 (東北大学大学院生命科学研究所教授・生物多様性総合評価検討委員会座長)

『日本の生物多様性総合評価について』

・渡邊 綱男（環境省大臣官房審議官）

『COP10 とその先に向けた日本の取組』

15:40-17:00 パネルディスカッション ―私たちは今、何をなすべきか―

・コーディネーター：武内 和彦

・パネリスト：A.H.ザクリ 中静 透 植田 和弘（京都大学大学院経済学研究科・地球環境大学院教授） 吉田 正人（国際自然保護連合日本委員会会長、生物多様性条約市民ネットワーク共同代表） 藤田 香（日経 BP 社 環境経営フォーラム 生物多様性プロデューサー） 渡邊 綱男

連絡先：環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性地球戦略企画室

担当：平野・若松 TEL：03-3581-3351（内線 6478）FAX：03-3591-3228

【東海】

●【国際ワークショップ】

「生物多様性保全に向けた応用生態工学からのアプローチ」

～ COP10名古屋に向けて ～

※ポスター発表（英語）も募集していますので、詳しくは下記の問い合わせ先へご連絡ください。 <http://www.ecesj.com/J/index.html>

日 時： 2010 年 5 月 13-14 日

場 所： 名古屋国際会議場・白鳥ホール

参加費： 無 料

使用言語： 英 語（同時通訳あり）

案内チラシ・申込み書：http://www.ecesj.com/J/events/2010/ECES_WS20100513_J.pdf

【開催案内】 今年、名古屋で生物多様性保全 COP10 が開催されます。会議では、生物多様性保全のための新しい目標設定をはじめ、さまざまな議論がされますが、COP10 名古屋では COP9 と同様、「都市と生物多様性」もひとつの焦点です。応用生態工学会では、科学的知見と技術を発展させ、流域の人間活動の中心としての都市の責任を果たすことが、「都市と生物多様性」を議論するポイントと考えています。昨年から多彩な分野の研究者による講演とパネルディスカッションを主体とした「生物多様性と流域圏」をテーマに 4 回のフォーラムを開催するなど議論を重ねてきました。その骨子を踏まえて、ここに本国際ワークショップを企画しました。

応用生態工学会の会員の皆様のみならず、生物多様性の保全や再生に関わるさまざまな分野の研究者や実務者、行政の方々など多方面からのご参加をお待ちしております。

2010 年 5 月 13 日（木）

9：30-11：00 開会宣言

11：30-12：30 基調講演

13 : 30-15 : 00

- セッション テーマ A :
「景観と生物 (Habitat Mosaic)」

15 : 30-17 : 00

- セッション テーマ B :
「水・物質フラックスネットワーク (Flux Network)」

2010 年 5 月 14 日 (金)

9 : 00-10 : 30

- セッション テーマ C :
「都市の責任 (Responsibility of Metropolitan)」

11 : 00-12 : 30 ケーススタディ (ポスター展示も含む)

13 : 30-15 : 30 パネルディスカッション

16 : 00-16 : 30 総括

- 応用生態工学からのアピールの採択

【申し込み・問い合わせ先】

名古屋大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻水工学講座

〒464-8603 名古屋市千種区不老町工学部 9 号館 TEL : 052-789-4626

E-mail : nhri@civil.nagoya-u.ac.jp

【中四国】

●環瀬戸内海会議 2010 年度海岸生物調査

5 月 16 日(日) 大阪府堺市エスコープ大阪と岬公園で調査予定です。みなでご参加ください。

●環瀬戸内海会議第 21 回総会 「瀬戸内海の漁業と島の暮らし」

とき : 5 月 22(土)~23 日(日)12:30 受付

ところ : 愛媛県今治市宮窪町 宮窪公民館

JR 等公共交通でお越しの方、JR 福山駅か、JR 今治駅に 11:30 集合

すでに、参加申し込みが入っています。参加申し込みはお早めに

申し込み期限 : 5 月 15 日までとしておりますが、宿泊の手配の事情もありますので、お早めにお申し込みをお願いします。

主催 環瀬戸内海会議

● 『ミツバチの羽音と地球の回転』 先行上映と鎌仲監督トークの会

2010年4月完成！『六ヶ所村ラブソディー』に続く長編ドキュメンタリー映画



スウェーデンー祝島 エネルギーの未来を切り開く人々

監督：鎌仲ひとみ 制作：グループ現代

2010年4年完成/カラー/スタンダード

鎌仲ひとみ監督によるトークもあります

◆上映日時

2010年5月1日(土)

上映1回目 10:30~12:30頃

1回目終了後 鎌仲監督トーク

上映2回目 13:30~15:30頃

2回目終了後 鎌仲監督トーク

上映3回目 16:30~18:30頃

3回目終了後 鎌仲監督トーク

上映4回目 19:30~21:30頃

*映画の上映時間は約2時間です。上記は終了の予定時刻です。

*鎌仲監督のトークは、映画のチケットでご参加

いただけます。ご参加は、映画の鑑賞前でも、観賞後でも、ご自由です。映画鑑賞前に鎌仲監督のトークを聴かれる場合は、その前の上映が終了する時刻を目安に、ご来場くださいますようご案内申し上げます。映画終了後、ホール内にご入場いただけます。(トークへの途中入場はできますので、ぜひ多くの皆さまのご参加をお待ち申し上げております)

◆会場：山口県教育会館(山口市大手町)

◆料金：【一般】前売券(電話予約可)1400円/当日券1600円

【大学生】前売券(電話予約可)1200円/当日券1400円

【高校生以下】当日券のみ1000円

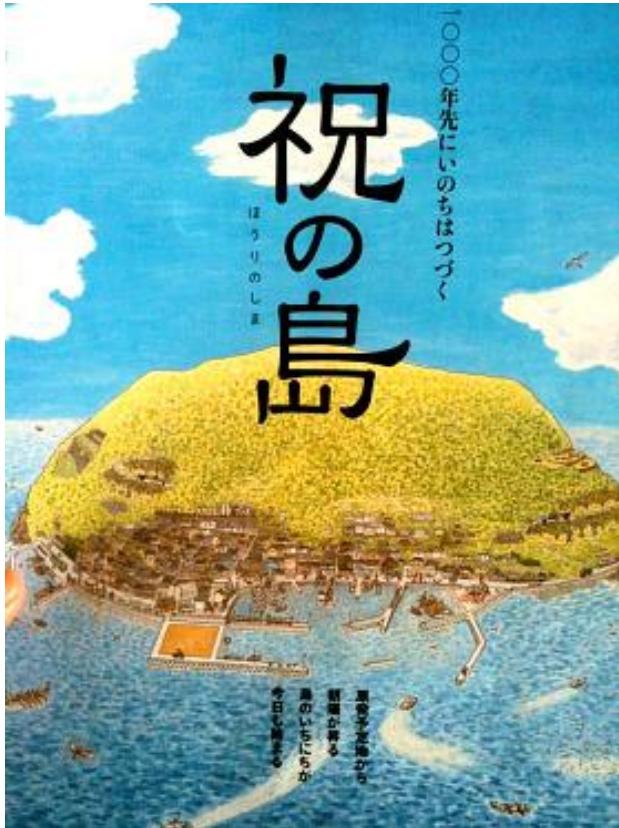
西京シネクラブ会員本人は会員料金です・・・会員募集中

◆主催・電話予約・お問い合わせ：西京シネクラブ TEL 083-928-2688

◆共催：「ミツバチの羽音と地球の回転」の上映を応援する会

◆後援：「ミツバチの羽音と地球の回転」制作プロジェクト/グループ現代

●映画「祝の島（ほうりのしま）」 額瀨あや監督作品 が完成



上関原発を拒否し続ける祝島の人々。その1000年を超える歴史と生活を描く。瀬戸内海現地上映会が5月は以下の日程で開かれます。

■5月2日（日）14:00～ 八幡生涯学習のむら（山口県周防大島町）

【申込・問合せ先】0820-78-0252（「祝の島」を観る会 橋本）

■5月4日（火/祝）18:30～ 祝島公民館（山口県祝島）

■5月5日（水/祝） 屋外（予定）（山口県長島田ノ浦）

■5月6日（木）19:00～ おもしろファームプラザ（山口県宇部市）

【申込・問合せ先】090-5372-8326（えにし 植野）

■5月8日（土）19:00～ ルルス防府（山口県防府市）

【申込・問合せ先】090-6866-8451（天神シネクラブ 川内）

■5月9日（日）13:30～ 三原市中央公民館第1講座室（広島県三原市）

【申込・問合せ先】0848-66-3592（東京原発三原実行委員会 坂本）

■5月28日（金）18:00～ 北九州市男女共同参画センター・ムーブ（北九州市）

【申込・問合せ先】093-961-7618（映画「祝の島」上映実行委員会 稲月）

■5月30日（日）14:30～ OASIS ひろば21 地下 映像小ホール（大分市）

【申込・問合せ先】090-2296-1953（脱原発大分ネットワーク 大原）

5. 海の生き物とその生息環境に関する文献

●杉原薫監修「造礁サンゴ フィールド図鑑（伊豆・三浦・房総編）」 NPO 法人「OWS」発行（2010）非売品

北限域のサンゴの分布を調査しているOWSの活動から生まれた図鑑。現場で活用できるように耐水紙に印刷したもの。サンゴの生きている状態のカラー写真と同定のポイントが書かれており、素人でも同定できるように工夫されている。現在は、44種が収録されているが、今後増えることも予想されるので、製本はされず、加えることができるようにパンチ

ファイルになっている。目的を限った調査には非常に便利。

●向井 宏「瀬戸内海の干潟再生事業とその問題点」 Ebucheb (エブオブ) ,
37:2-6 (2010)

Ebucheb は、NPO 法人 OWS の機関誌。特集として 37 号に掲載した。瀬戸内海のみならず日本各地で行われている「干潟再生事業」の中身を批判的に解説したもの。干潟「再生」事業がけっして再生ではないことを明らかにし、真の再生を目指すためにどう考えればいいのかを簡単に解説したもの。

6. 事務局便り：

- この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月 1 日と 16 日の 2 回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

7. 編集後記

寒暖の繰り返しが激しい今年の春でしたが、ようやく寒さも終わったようです。はやくも 5 月になりました。大型連休が始まりますが、海のいのちをめぐる騒動は、沖縄の辺野古や泡瀬、山口の上関、九州の諫早湾など各地で続いています。連休中も各地でいろんな催しがありますが、ぜひ一度映画や講演会グリーンフェスタなどに足を運んでみてはどうでしょうか。日頃仕事が忙しくて、なかなか海の生き物を守る運動と関われない人も、連休には海に行って生き物と接するのもよし、さまざまな活動に参加するのもいい機会です。

よう。(宏)

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第 59 号

2010 年 5 月 1 日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1

グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会